

平成22年度

# 学校評価

市教育委員会は、市内の全小・中学校の学校評価をまとめました。  
ここでは、各観点における今後の改善点を紹介します。

## 評価方法

- 自己評価…市内各小・中学校の学校教職員による自己評価を中心に、児童生徒や保護者、地域の人によるアンケートの結果を総合的に分析し、4段階で評価したもの
- 学校関係者評価…学校評議員により、学校が示す改善策や今後の課題を評価したもの
- ※学校関係者…地域の有識者、PTA代表など学校長が推薦した者

## 学校運営

### 危機管理体制の整備

- ・校区が広く、登下校時の安全確保が課題である。
- ・職員の一層の危機管理能力の向上を図るため、様々な危機状況を想定し、実践的対応能力の向上を図る。
- ・子どもの怪我防止のため、さらに安全に配慮する。
- ・地域と連携した防災・防犯訓練を実施する。

### 生徒指導、進路指導(中学校)

- ・教師は、毎日子どもとの内面理解に努めているが、一緒に遊んだり、ゆつくりと話を聞いたりする時間が十分とれていないため、子どもと向き合う時間を全校的に作る。
- ・子どもとの面談時間を学期ごとに設ける。
- ・子どもとふれあう機会を大切にするとともに、子どもの心に響く指導を展開する。
- ・継続的に実施している児童アンケート、生活アンケートの活用をさらに工夫する。

### 開かれた学校づくり

- ・オープンスクールの内容などを検討し市民が参加しやすい諸条件を整えるとともに、日常の教育活動への積極的参画を促す必要がある。
- ・家庭からの情報を得る方策を考える。
- ・地域の声も交え、さらに地域と一体となり、開かれた学校づくりに努める。

### 自己評価

- ・不審者対策に民生委員が参加した時期があったが、民生委員に要請いただければ、参加の呼びかけをさせてもらう。
- ・情報の発進力は優れている。HPなどを通じて学校の様子がよく理解できる。地域自治協議会などの組織や市広報紙、CATV等の情報発信媒体を利用し学校の組織についてさらに広報活動を推進してほしい。

### 学校関係者評価

- ・地域の防犯活動では、あいさつができない子どもたちに対して1年後、2年後の変化を期待しながら温かい指導を続けている。学校、保護者そして地域が子どもたちの健全育成に協働して取り組むことが大切だと思う。
- ・一人一人の生徒にあった指導がされていると思う。身近に住んでいる本校生徒からも進路についての不平不満は聞かれない。
- ・朝に見守り隊の方をよく見かけるが、下校時は少ないように思う。下校時も朝同様に多数の見守りが必要である。
- ・運動場芝生化により、子どもの運動量が増えたにもかかわらず、けがが減った